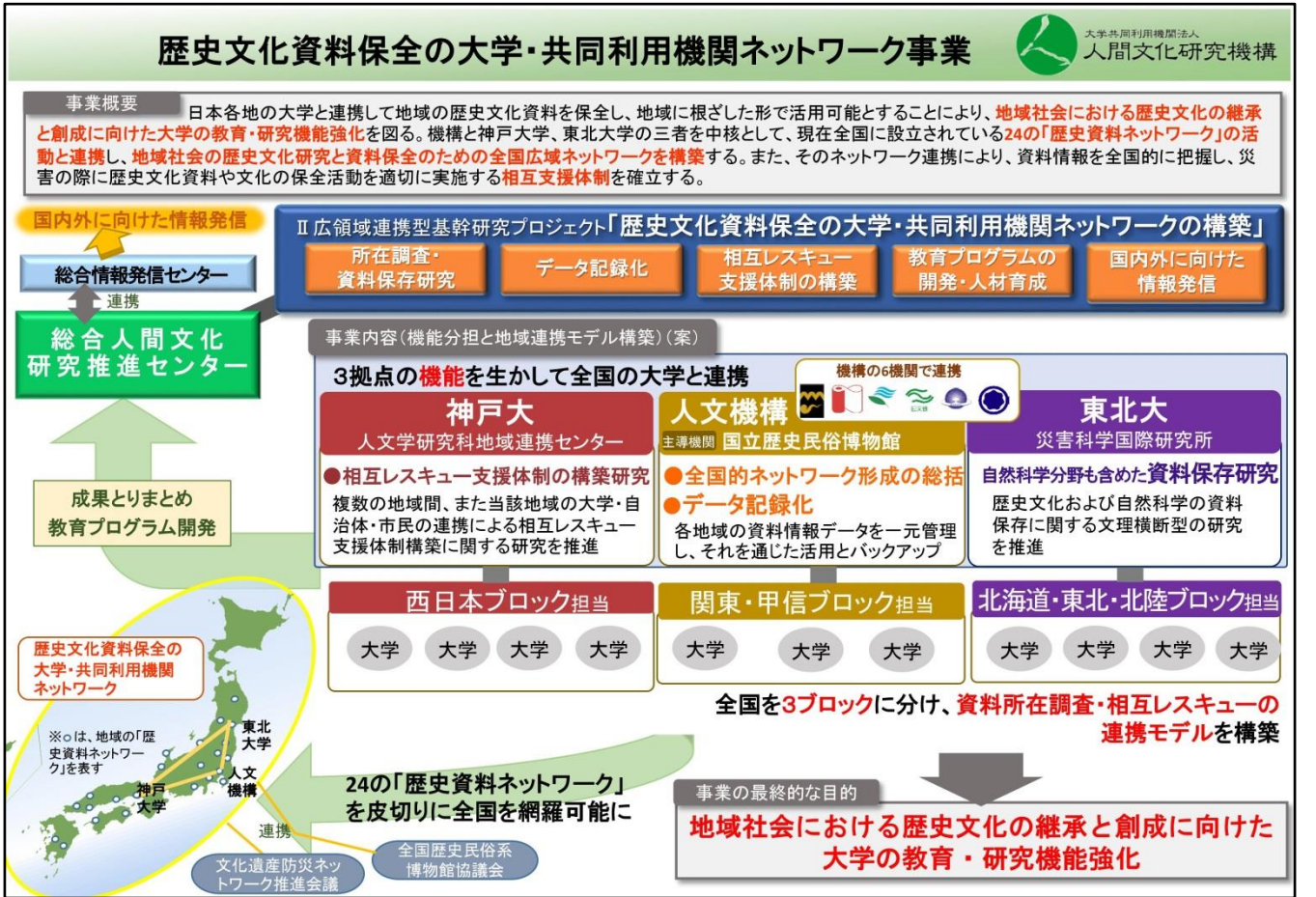


国立歴史民俗博物館と福島大学との連携・協力に関する協定書の内容について

阿部 浩一(行政政策学類教授)

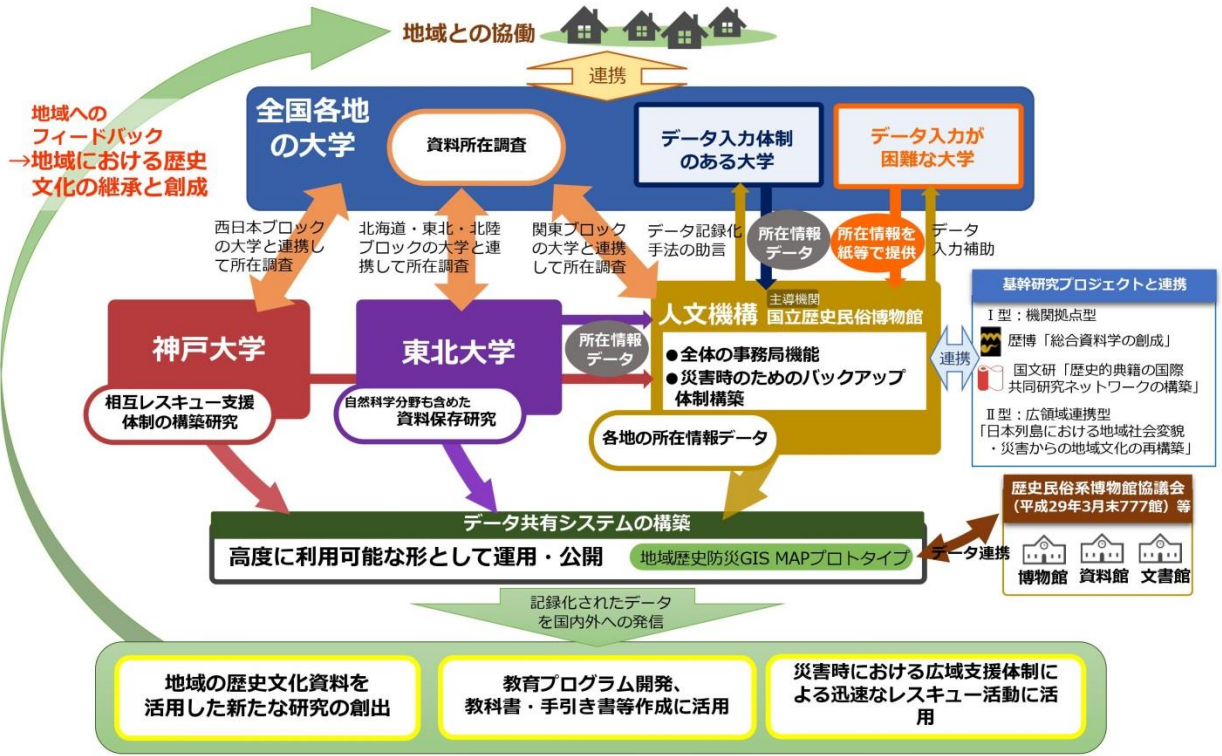


(国立歴史民俗博物館提供)

- ・全国的に広がる「史料ネット」(災害時に地域の歴史・文化遺産を救出する社会活動の連携体)
- ・事務局の担い手の多くが地方国立大学の日本史研究者
- ・全国規模の連携と交流の進展(全国史料ネット研究交流集会、2016年度第2回は福島開催)
- ・連携強化の核としての歴博(=大学共同利用機関法人 人間文化研究機構の一)
- ・福島大学は、「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」の代表・事務局として、東日本大震災以後の歴史資料保全活動を推進してきた実績がある
 - 県内各地での文化財レスキューへの参加(須賀川市、国見町など)
 - 双葉・大熊・富岡3町の博物館資料搬出の後方支援(相馬市)
 - 個人蔵の多様な資料の記録保全活動
 - 福島大学うつくしまふくしま未来支援センターでの記録保全活動(2014年～)
 - 富岡町の資料保全活動の支援(2014年～)
- ・歴博との協定を機に、研究での活用、教育面での人材育成などで相互協力関係を強化したい



歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業における
データ記録化と共有・活用体制



(国立歴史民俗博物館提供)

【これまでの実績】

- 全国史料ネット研究交流集会、科研グループ(神戸大)などを通じた研究交流
- 天野准教授による技術指導(2017・18年度、襖の下張り文書の記録保全の手法)
- 2018年度総合資料学第1回地域連携・教育ユニット研究会(7月15日)

【今後期待される展開】

- 福島大学で集積した資料データの共有とバックアップによるレスキュー体制構築の進展
 - 資料データの研究面での活用
 - 教育プログラム開発のための相互支援
- 行政政策学類の博物館学芸員資格関連授業／文化財保護法一部改定を視野に入れた、学生と市民がともに学べるような新たな授業の立ち上げ

